

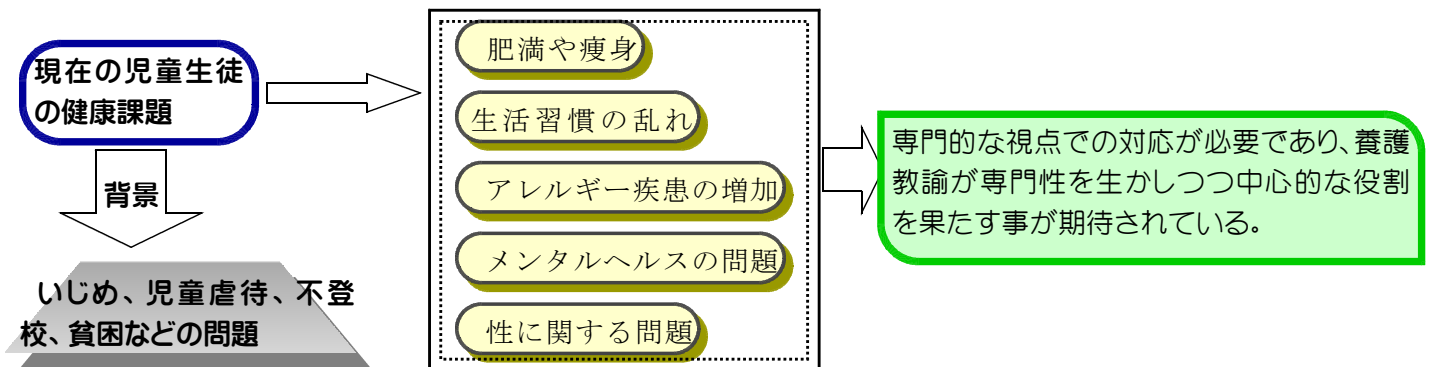


南房総のハズシ

現代的健康課題を抱える子どもたちへの支援

～養護教諭の役割から～

現在の児童生徒の健康問題は多様になっています。その背景には、いじめや虐待、不登校、貧困などの家庭的または生徒指導的な問題も関わっています(下図)。このような中、学校においては、養護教諭の役割が大変重要になっています。



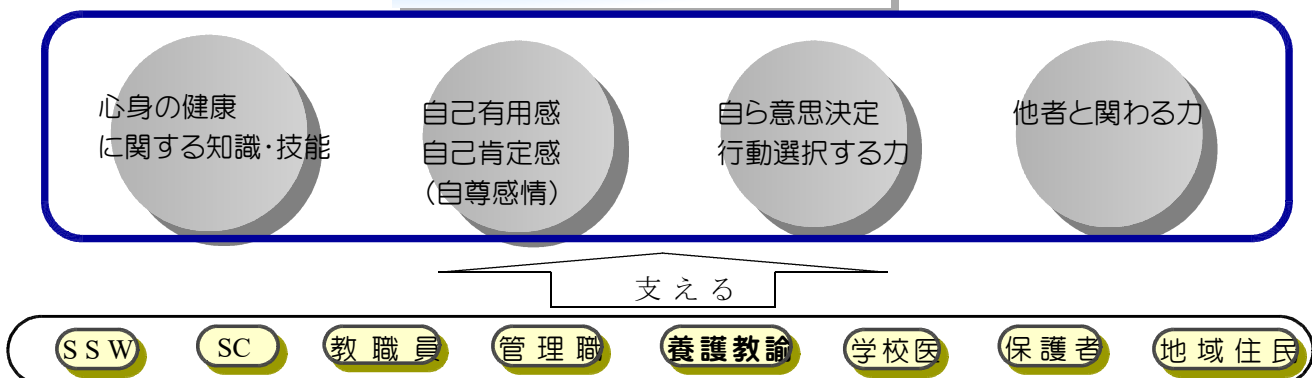
これらの現代的な健康課題に関わる養護教諭の役割とは？

児童生徒の健康課題を的確に早期発見し、課題に応じた支援を行うことです。また、すべての児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成する取り組みを、他の教員と連携して日常的に行うことです。

どのような取り組みを実施するのか？

基本的には、「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感(自尊感情)」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」の育成を日常的に、教職員や家庭・地域と連携しつつ行っていくことです。

健康な生活を送るために必要な力



児童生徒を支えるために適切に連携し、それぞれの役割を果たすことが重要

養護教諭が中心となることが期待される取り組み例を以下に示すので、参考にし、地域や学校、児童生徒の実態を踏まえ、取り組んでいきましょう。

心身の健康に関する知識・技能

- 基本的な生活習慣を形成するための指導(運動・食事・睡眠等)や心身の発達について理解するための指導の充実を図る。
- ※基本的に授業は教諭が行うものであるが、例えば、保健教育にチームティーチングで参加・協力する、個別の保健指導を実施する、保健指導用の資料を作成する、保健便りや掲示物等で啓発を行う、などの取り組み。

自己有用感・自己肯定感(自尊感情)

- 委員会活動の中で健康に関する発表を行うことや1年間を通して継続的に取り組む活動を企画・実行する。
- 学校生活の中で、養護教諭は様々な行事や活動に参加する機会が多い。このことから、互いに良さを認め合うことや、他者の役に立っていると感ずることのできる機会や情報を提供し、児童生徒の自己有用感を高めるように努める。
- 保健室を利用して、自己肯定感を高められるよう、困難な状況を乗り越えるような体験の機会を設ける。例えば、「苦手な友達に自分の気持ちを伝える」「『やめて』と言えるようになる」など、保健室で児童生徒と練習した後、実際に対処させる。

自ら意思決定・行動選択する力

- 児童生徒が、「自分なりの不安や悩みの解決策」「自分らしい意思決定」ができるようにするため、健康相談や保健指導を通して、自分について見つめたり、考えたりすることを支援する。(気持ちのコントロール方法、ストレスの対処方法など)
- 学級活動の中で、児童生徒が自ら決定した健康に関わる個人目標に対して、達成できているか具体的な実践内容についての振り返り、それを踏まえた次の目標設定などについて、事後指導等で学級担任と連携して支援する。

他者と関わる力

- 保健室来室の際、自分の体の状態を伝えられるように保健指導する。
- 保健室での健康相談を通して、「こんな言葉を使うと友達は嬉しいよ」「こうしてあげるともっと嬉しいよ」といった他者と円滑にコミュニケーションを図る能力を育てる。
- 児童生徒会活動(委員会活動等)でペア歯みがきや、小学校・保育所等での異年齢交流、老人福祉施設等での体験学習や地域の人々との交流等に取り組むことにより他者を尊重し、ともによりよい集団生活や社会生活を築こうとする態度を育てる。

学校における児童生徒の課題解決の基本的な進め方

